



# シーニックバイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルート



中村 幸治 (なかむら こうじ)

支笏洞爺ニセコルートコーディネータ  
(一社)北海道開発技術センター主任研究員

1976年 北海道虻田郡留寿都村生まれ。大学院修了後、まちづくり・景観づくり系の民間シンクタンクに勤務。2005年にシーニックルートとして「支笏洞爺ニセコルート」が指定され、ルートコーディネータを担当。“生まれ育った地域への恩返し”をモットーに人や資源をつなぐ新たな付加価値の創出を目指した地域づくりの企画提案・実践を行っている。北の観光まちづくりリーダー養成セミナー講師や北海道遺産プロジェクトチーム委員などを務める。

## 支笏洞爺ニセコルートの概要

支笏洞爺ニセコルートは、支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽国定公園を走っています。なかでも今も噴煙を上げる有珠山、昭和新山と洞爺湖を含む地域は世界ジオパークに認定されています。当地域はこのような、北海道らしい雄大な景観と、悠久の地球の営みを感じられるため、テーマを「美しい湖と秀峰、火山に出逢えるルート」としています。当ルートは、支笏湖及び千歳・恵庭を中心とする「ウェルカム北海道エリア」と洞爺湖や有珠山を中心とする「洞爺湖エリア」、羊蹄山周辺を中心とする「ニセコ羊蹄エリア」の3つのエリアから構成され、エリアごとに特色・特徴を活かした活動及び運営を行っています。

## ビューポイントパークの維持管理

当ルートには、ふと立ち止まりたくなるような北海道らしい風景の撮影スポットとして、安全かつ景観に優れた駐車場「ビューポイントパーク」が数箇所整備されています。

シーニックバイウェイの原点と考える“美しい沿道景観づくり”と快適な休憩スペースの提供を目的としたボランティアによるプロジェクトで、道路空間の維持管理をしています。2011年までは、各箇所、自治体ごとに実施していましたが、12年から参加人数の確保、活動参加者のモチベーション向上などを目的として、京極、倶知安、喜茂別の3町合同で実施しています。地域内外に誇れるシーニックバイウェイのさらなる認知度向上に向けた展開を目指し、活動を継続しています。

## シーニックナイト～灯りがつなぐ雪のみち～ (キャンドルによる冬季沿道景観の演出)

05年から冬の沿道を彩り楽しむ取り組みとして、北海道の空の玄関口である千歳～恵庭から、世界有数の観光地である倶知安・ニセコや世界ジオパークを有す



3町のボランティア集合写真

る洞爺湖畔をアイスクャンドルでつなぐ「シーニックナイト」を実施。幻想的な沿道景観の創出をきっかけに、「多くの方々に地域を訪れていただく」「巡っていただく」と継続的に取り組んでいます。当初は、3自治体（3箇所）での開催でしたが、現在は、11自治体（30箇所）と拡大しています。各自治体で関連イベントが企画・実施されるようになるなど、地域内、地域間連携の活発化に寄与しています。なお、この取り組みは、先進性、モデル性、訴求性、国際性の優位さと持続可能性への配慮と他ルートの参考となることなどが評価され、「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2008」の最優秀賞を受賞しました。

### タカラモノ☆プロジェクト～地域の邪魔ものを宝に～

「支笏湖や洞爺湖で駆除されているウチダザリガニを食べられないか？」という何気ない一言から始まったのがこのプロジェクト。その後、いろいろな議論や試行錯誤を経てどんどん形を変え、最終的に捨てられているものやこれまで見向きもされなかったものに光をあてて新たな付加価値をつける、『地域の宝物』として再活用するコンセプトに落ち着きました。

11年から活動を始め、支笏湖のホッチャレヒメマスせんていを洞爺湖のリングあぶの剪定枝くんせいのチップで炙って作った燻製と道端に自生するスベリヒユ\*1とを用いた『支笏洞爺ニセコルート・オリジナルピザ』などの試行メニュー作成や、道端の野草レシピなどを研究しています。道内各地の道路沿線に大量に自生する雑草のイタドリや白樺樹液を活用したパン、長芋のムカゴ\*2を活用した料理の提供など、ルート内のホテルや道の駅、飲食施設等で徐々に再活用が広がっています。

この取り組みは、大規模な食品流通システムが扱わない「小さな産地の隠れた食材」を訪れた方々に味わっていただくことで、地元の食の文化と味を伝え、広め、楽しむことにつなげることを目的としています。食材だけでなく、車道に迫り出すクルミの枝を伐採し、枝は有珠山を訪れる観光客へ杖として貸し出し、皮はバッグやコースターにして、売上げの一部を活動費に充てる取り組みも実施しています。将来的には、これらの取り組みを基にルート内の資源を循環的に活用し、沿道景観の維持につなげる活動を目指しています。

### おわりに

シーニックバイウエイは、2年や3年の短期で目立った成果が出てくるような活動ではなく、10年続けてようやく何かが見えてくる、長期間での評価が望ましい活動と考えています。その理由は、地域活動の成果が、目の前の事業の成果だけではなく、シーニックバイウエイによる関係者の結びつきや活動参加などの副次的効果の大きさにあるのではないかと考えているからです。つまり、長く続ける中で、地域関係者が関係者間の交流や協働に楽しさを見だし、そこから自発的に活動を構築する、地道だけれど確実な地域づくりがシーニックバイウエイだと捉えています。

支笏洞爺ニセコルートは、第一ステージの10年が終わり、次の10年の第二ステージに向けて、さらなる可能性を探っています。地域の豊かな資源を活かし、地域に埋もれていた未利用資源を可視化・価値化することで、地域を元気にする。支笏洞爺ニセコルートの歩みは、まだ始まったばかりですが、そこには“地域づくりの理想型”があると感じています。



シーニックナイト ウェルカム北海道エリア（恵庭市）



シーニックナイト ニセコ羊蹄エリア（倶知安町）



映画のワンシーンのような国道276号（喜茂別町相川）

#### ※1 スベリヒユ

畑地や道端に生える一年草。若苗は粘りがあり、食用。

#### ※2 ムカゴ

多くは葉のつけねにできる、養分を蓄えて球状となった芽。長芋では茎にできる。